

会報第二十八号発行にあたって

田村支部長 根本保男

まさかここまでコロナウイルスが猛威を振るい続けているとは・・・何もできないまま三年目を迎えることとなつてしまい、残念でなりません。役員会でも、何かできることがないだろうか、知恵を出し合い考えてきましたが、これと言ったよい打開策が見つからないまま三年目を迎えてしまいました。コロナ感染状況にも波があるので、感染者が少ないタイミングでと考えても、お知らせから参加者の集約、そして開催となると一ヶ月ほど先のこととなつてしまい、実施の判断が困難でした。共通の趣味とかがある方々で、まず少人数からの取組を先行し、いくつか活動の土台を作り、周知し充実させることはできないかという提案もありました。これまで、会報を通じた会員の交流を心がけてきましたが、やはり会員が一同に会し、お互いの顔を見合い交流する必要性を強く実感しています。長引くコロナ禍、「ウィズ コロナ」という考えも出てきました。お店などの感染対策も充実してきました。今年度こそ、計画にない取組でも、実行できそうな取組があれば実現していきたいと考えています。今年度こそ、楽しいご案内ができることを心より願っています。今年度も、会報へのメッセージ、ご意見、ご要望等をお気軽に寄せ願います。

三名の新会員の方々から入会のご挨拶をいただきました。田村支部活動の益々の充実に向け、大変心強く思っています。会員の皆様が一同に会する機会に改めましてご紹介させていただきます。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

入会のごあいさつ

堂山 昭夫



令和四年三月末日をもって定年退職し、退職校長会に入会させていただきました。よろしくお願い申し上げます。

昭和五十九年四月一日に講師として教員生活の第一歩を踏み出し、三春中学校を最後に三十八年間の教員生活に節目を迎えることができました。先輩諸先生方のご指導のお陰と深く感謝申し上げます。

教員生活を振り返りますと、学級担任や部活動顧問としての教諭時代は十年と短く、管理職や行政機関等での勤務は二十六年です。四十代の後半頃は、定年まで先は長いなあと思っていました。何とか定年退職まではと、その一心だったと記憶しています。

新任校長として赴任した学校では、東日本大震災と原発事故による課題に直面し、定年前の三年間は、新型コロナウイルス感染症への対応に苦慮する日々でしたが、多くの方々のご指導とご協力により、何とか勤めることができました。

退職したら「これもしたい、あれもやってみたい」と思いを巡らせていたのですが、いざ退職してみるとそうもいきません。四月一日から再任用

で第二の教員生活をスタートさせました。拠点校方式で四校、四名の初任者研修指導教員として、岩瀬地区の中学校に勤務しております。自らの反省を込めつつ、これからの学校教育を背負って立つ教員の育成に微力ながら携わらせていただくこととなり、新鮮な気持ちで職務に当たっております。

退職校長会の皆様には、今後ともご指導・ご助言をいただきますとともに、これからは会員としてもお世話になります。

入会のごあいさつ

高橋みどり

この三月、田村市立滝根中学校を最後に定年退職し、退職校長会に入会させていただきました。ことになりました。



昭和五十九年四月、英語科の採用試験に合格しましたが、思いもよらず音楽教員として採用。住居が間に合わず、隣接校に赴任した高校時代の同級生と共に保護者の家の離れに仮住まい。自家用車もないので、同級生に同乗させてもらって通勤や買い物に出かける日々。衝撃だらけの教員生活のスタートでした。自然豊かな学区で、通学時に猪に遭遇する生徒もいると聞きました。当時の校長先生が、色々な思いを抱えながら、時には怖い思いをしても、生徒は学校に来る。だから、学校は楽しくて来たかがある所でないといけない、ということを抑えました。その考え方は私の教員生活のベースとなりました。

延べ九校に勤務いたしました。いづれの学校においても、子どもたちから多くのことを教えら

れ、学校に期待を寄せて力を貸して下さる保護者や地域の方々に励まされ、全身全霊で教育に向き合う先生方から教員としての在り方を学ばせていただきました。小学校での勤務も、大きな財産になりました。校長として田村に戻って来た時、先輩の校長先生方に温かく迎え入れていただき、学校経営や各種の活動について丁寧にご助言をいただいたことはとても有り難く、安心につながりました。自分もそのようにありたいと、強く思いました。

自分に与えていただいたものを、学校現場でどれほど還元できたのか甚だ心許ないのですが、自分なりに一生懸命勤めてきたつもりです。コロナ禍の中で教員生活にピリオドを打つことになり、その一点においては残念な思いもありますが、今後はこれまでの経験を生かして、少しでも地域のお役に立てればと思っております。これからもご指導を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

入会にあたって

村上順一



令和四年三月三十一日をもって、三十七年間の教員生活を終えました。ここまで勤めてこられたのは、それぞれの学校や地域で巡り合った、多くの先輩・同僚教員の皆様、生徒、保護者、地域の皆様の支えや励ましがあつてのことと深く感謝するばかりです。

コロナ禍ということもあり私の判断で学校としての離任式は行いませんでした。しかし、大越中学校の一年生、二年生、生徒会、部活動とそれぞれに生徒たちが（先生の指導もあつてか？）プチ

離任式を開いてくれたり、校長室を訪ねてきてくれたりしました。その折に手作りの色紙や色とりどりのきれいな花束などを手渡され、感謝の言葉ももらいました。そして、PTAの役員の皆様からも贈り物やねぎらいのことば等をいただきました。改めて教員という仕事が多くの人に支えられていることを実感するとともに、仕事としての「教員」の素晴らしさ、楽しさに気づかされました。反面、私はこの人たちの期待に本當に応えられたのであろうかと自分を振り返り、反省もしました。

振り返ってみますと、教諭の時代、教頭の時代、校長の時代とその立場でなければできない貴重な経験をたくさんしました。そのことによつて教員として成長するとともに人としても成長することができたと思っております。特に、教頭時代の東日本大震災に関係する様々な対応や経験、校長時代の新型コロナウイルス感染症と向き合った退職までのおよそ2年間の日々は深く考えを巡らし、先の先を読んだ行動をすることの大切さ、必要性を強く感じさせられた出来事でした。

四月からは何もなければ愛犬を連れ、軽キャンピングカーで全国を一周したいと思いついていましたが、思いがけず声をかけていただき、違つた立場で学校を見つめ支援することとなりました。いただいたご縁に感謝し、これまでの経験を上手に生かしながら微力ではありますが、少しでも貢献できればと思っております。しかし、そのためにはやはり健康が第一です。私も六十歳を過ぎ、体のあちこちが傷みだし、年相応な状況です。完璧な健康体ではありませんので、自分の体調に注意しながら毎日を過ごし、生活を続けていきたいと思っております。今後は退職校長会の一会員であることを心に刻みながらさらなる精進をつづけてまいりたいと思っております。

福島県公立学校退職校長会の取り組みについて

四月二十七日に、福島県公立学校退職校長会理事会が開催される予定でしたが、コロナの蔓延から要項（紙面）での開催・承認となりました。

その中で県としての新たな取り組みが提案されました。その「概要」をご報告させていただきます。

次世代に範をみせる、そしてより魅力的な組織に成長する。そのために、福島県公立学校退職校長会では、SDGsの取組の一つとして、「デジタル化の推進」とともに「社会貢献活動を活性化する取組を推進する」ことで社会的責任を全うしたい。

一 社会貢献活動の推進

令和四年度から令和八年度までの五年間を「社会貢献活動重点期間」とする。

各支部における社会貢献活動実態把握・集計、社会貢献活動やボランティア活動に取り組んでいる会員の紹介、県大会での事例発表、特色ある活動の広報誌での周知等を視野に入れていきます。

二 ホームページの開設

福島県公立学校退職校長会の紹介、会員及び現職校長への情報提供、様々な活動の成果などを発表したり、他の支部の活動を参考にしたりすることにより活動の充実につなげる。活動の様子や成果を継続的に発信し、会員相互の交流の場として活動の発展を図る。ホームページの機能を、「広報」「連絡」「提供」「交流」の四つと考える。

（なお、「提供」の内容には、支部会報や支部の活動の紹介も明示されています。）